

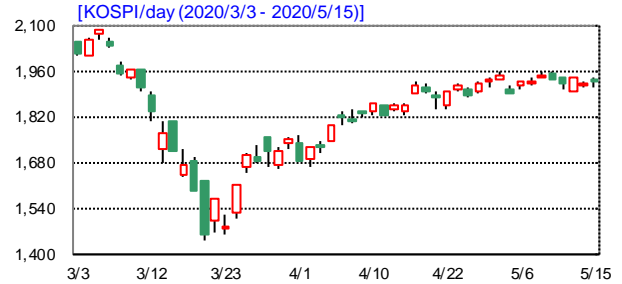


## 【韓国】 総合指数は週間で 1.0%安と続落、今週は 1900 ポイントで値固めか

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.0%安と続落。韓国政府は 6 日に新型コロナウイルスに対する防疫体制を緩和したが、9 日にソウル市内のクラブで集団感染が発生。週明け 11 日と 12 日は株式相場は感染の再拡大を懸念する売りで続落した。13 日も売りが先行し、一時は心理的節目の 1900 ポイントを 4 日以来 6 営業日ぶりに割り込む場面があった。ただ、同日は中国本土相場の上昇に追随し、3 営業日ぶりに反発して終えた。米 FRB のパウエル議長が講演で米景気の下振れリスクを強調したことで、14 日は反落。15 日に反発したものの、トランプ米大統領の発言を受けて米中貿易摩擦への懸念が再燃し、上値が重かった。今週は 1900 ポイントで値固めか。新型コロナ感染者の推移と米中関係をにらみながら神経質な展開となりそうだ。

▼指数チャート

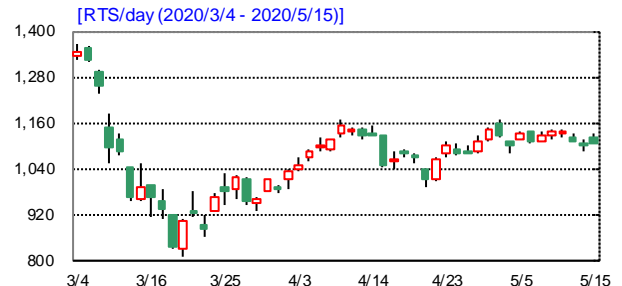


## 【ロシア】 RTS 指数は 2.5%安と 4 週ぶり反落、今週も原油相場をにらんだ展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.5%安と 4 週ぶりに反落。新型コロナウイルス感染拡大の第 2 波に対する警戒感や米中対立の激化懸念が重しとなった。先週は 11 日が戦勝記念の振替休日で 4 日間の取引。3 連休明けの 12 日は小幅高となったものの、13 日は新型コロナ感染拡大の第 2 波への警戒感や米中対立の激化懸念から欧米株が下落したことで、ロシア株にも売りが強まった。RTS 指数は 13 日に前日比 2.4%安と 4 日ぶりに反落すると、14 日も 0.7%安と続落。15 日は反発したものの、週間ベースで 4 週ぶりに反落した。個別では、エネルギーのシングルネフチガスが 7.9%高となった一方、モスクワ取引所が 10.6%安、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが 6.2%安と軟調だった。今週は原油相場や欧米株価をにらんだ展開が続くか。

▼指数チャート



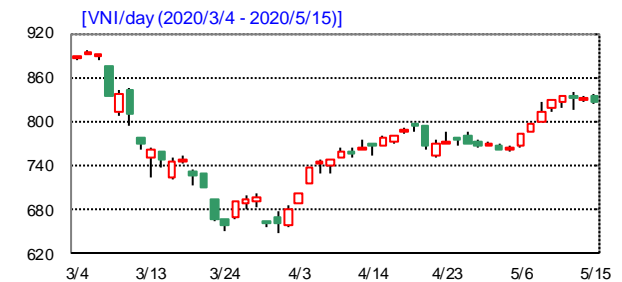
## 【ベトナム】 ベトナム指数は 1.6%高と続伸、今週は米中関係悪化で神経質な展開か

か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 1.6%高と続伸。経済活動再開で景気回復期待が強まる中、IMF の強い成長率見通しが好感された。前週に 5.8%高と大幅に反発した VN 指数は週明け 11 日も 1.8%高と上昇。経済活動の再開で景気回復期待が強まる中、IMF は 2020 年の成長率が 2.7%に減速するものの、2021 年は 7%に回復するとの見通しを示した。12 日も金融株などが買われ、指数は 0.8%高と前週 5 日から 6 日続伸。835.32 ポイントで終え、3 月 10 日以来の水準を回復した。その後は米中対立懸念などから 15 日まで 3 日続落し、827.03 ポイントで週を終えた。個別では金融のテクコムバンク、ベトナムバンク、エネルギーのペトロベトナム・ガスなどが指数を押し上げた。今週は景気回復期待と米中関係の悪化を背景に神経質な展開か。

▼指数チャート

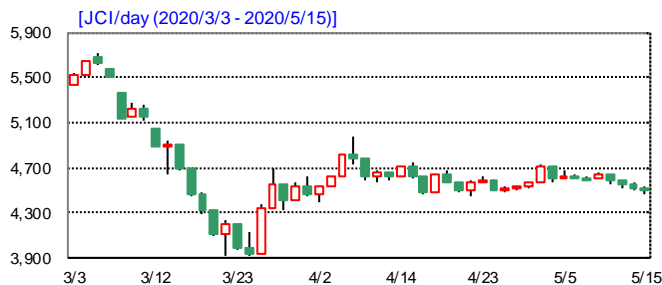


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.0%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催**

ジャカルタ総合指数は週間で 2.0%安と続落。週初は反発したが、その後は週末まで 4 日続落した。11 日は国内経済が段階的に再開されるとの観測が広がり反発した一方、12 日は新型コロナウイルスの感染による国内の死者数が 1000 人を越えた影響で、前日比 1.1%安と反落。13-14 日もじりじりと下値を広げると、15 日は 4 月の貿易収支が 3 カ月ぶりに赤字となったことで売られ、指数は終値で 3 週間ぶりの安値を更新した。今週は 19 日に中央銀行が定例会合を開催する予定で、政策金利が 0.25%低い 4.25%に引き下げられるとの見方が優勢。21 日はキリスト昇天祭、22 日は断食明け大祭のため休場となる。

### ▼指数チャート

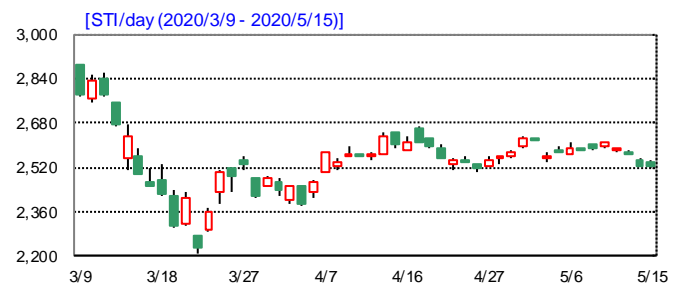


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.6%安、今週は 4 月の非石油地場輸出が焦点**

スレーツタイムズ指数は週間で 2.6%安と続落。国内の重要イベントが少ない中、さえない値動きが続いた。週初の 11 日は、前日に中国人民銀行（中央銀行）が追加の金融緩和を示唆したことが買い材料となり、4 営業日続伸。ただ、12 日に反落すると、その後も軟調に推移した。14 日は 1-3 月期決算の発表を目前に控えたシンガポール航空が指数下落を主導し、終値ベースで前日比 1.9%安と 3 日続落。一方、15 日は中国の 4 月の鉱工業生産が前年同月比 3.9%増と 4 カ月ぶりに前年の水準を上回った効果で小幅に反発して取引を終えている。今週は 18 日発表の 4 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

### ▼指数チャート

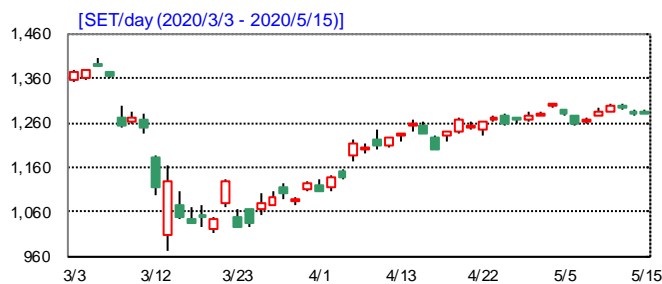


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.2%高、原油価格上昇が奏功**

SET 指数は週間で 1.2%高と反発。週前半の上昇が奏功した。11 日は経済活動制限の緩和拡大への期待感から買われ、指数は終値で前営業日比 1.7%高と続伸。12 日は原油価格が上昇した効果でエネルギー株が指数上昇をけん引した。ただ、13 日に反動で下落すると、14 日は新型コロナウイルスの第 2 波に対する警戒感が広がった影響で、前日比 1.1%安と続落。15 日は前日からほぼ横ばいで取引を終えている。今週は 18 日発表の 1-3 月期の GDP、20 日に中央銀行が開催する定例の金融政策決定会合、22 日発表の 4 月の貿易統計（通関ベース）が焦点。原油価格の上昇傾向が続けば株式相場の支援材料になりそうだ。

### ▼指数チャート

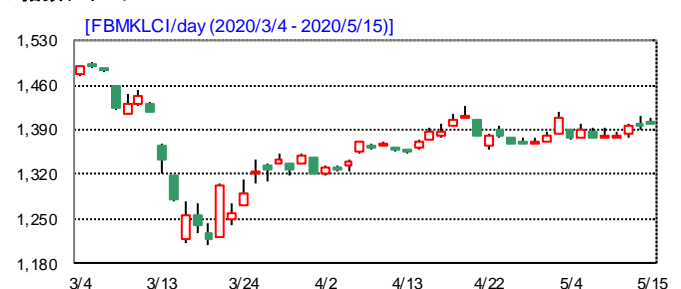


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%高、1-3 月期の GDP はプラスを維持**

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.5%高と反発。おおむね堅調に推移した。連休明けの 12 日は、3 月の鉱工業生産が前年同月比 4.9%減と 4 年 3 カ月ぶりに前年の水準を下回った影響で、指数は小幅に反落。一方、13 日は 1-3 月期の GDP が前年同期比 0.7%増と市場予想の 1.5%減から上振れた効果で、前日比 1.2%高と反発した。15 日は原油価格の上昇を受けてペトロナス・ガスなどのエネルギー株が指数上昇をけん引し、終値で約 2 週間ぶりに 1400 ポイントを回復している。今週は 20 日に 4 月の CPI が発表される予定。外部要因では、22 日に開幕する中国の全国人民代表大会が意識されそうだ。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。